

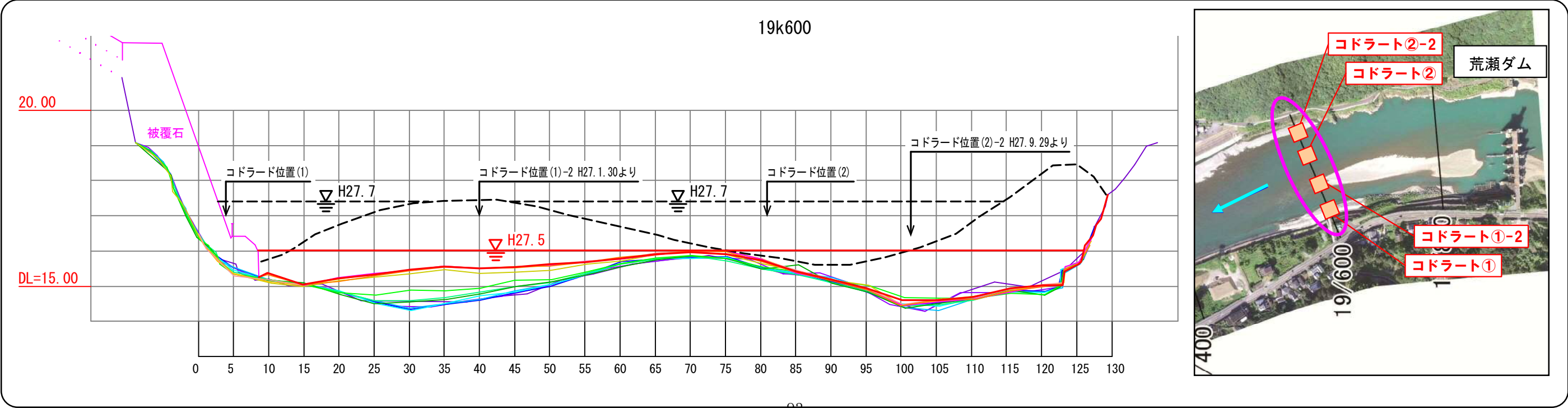
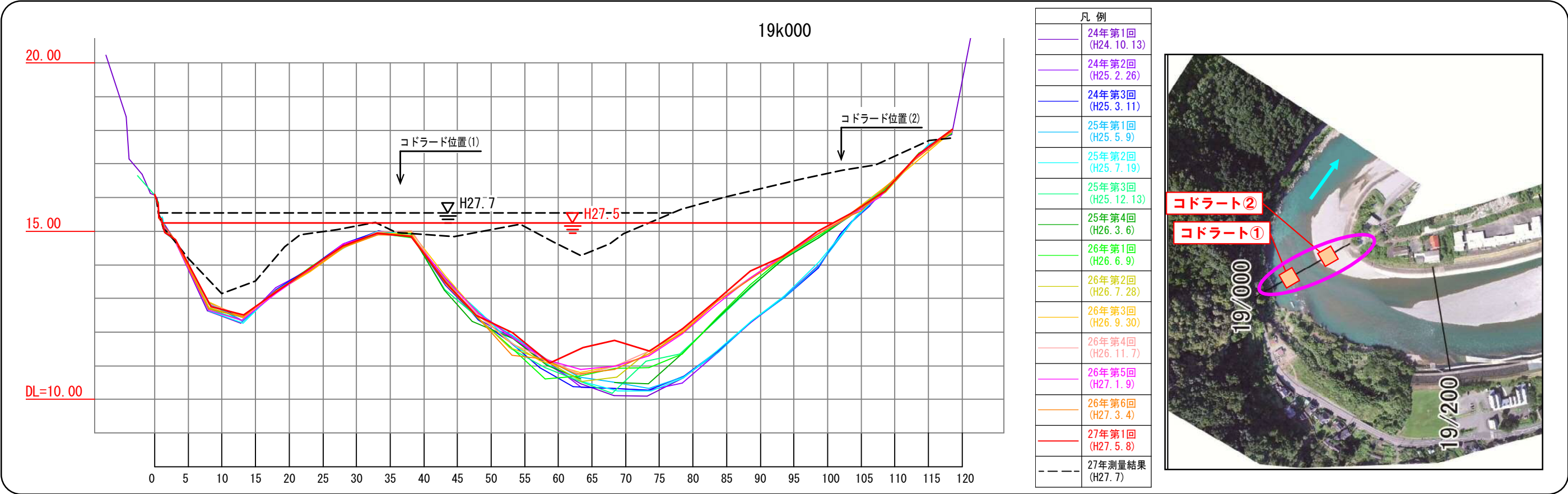
(3) リーチスケール項目

1) 物理環境の定期モニタリング

【参考資料 I -288参照】

【荒瀬ダム下流における物理環境（横断形状）の変化の概要】

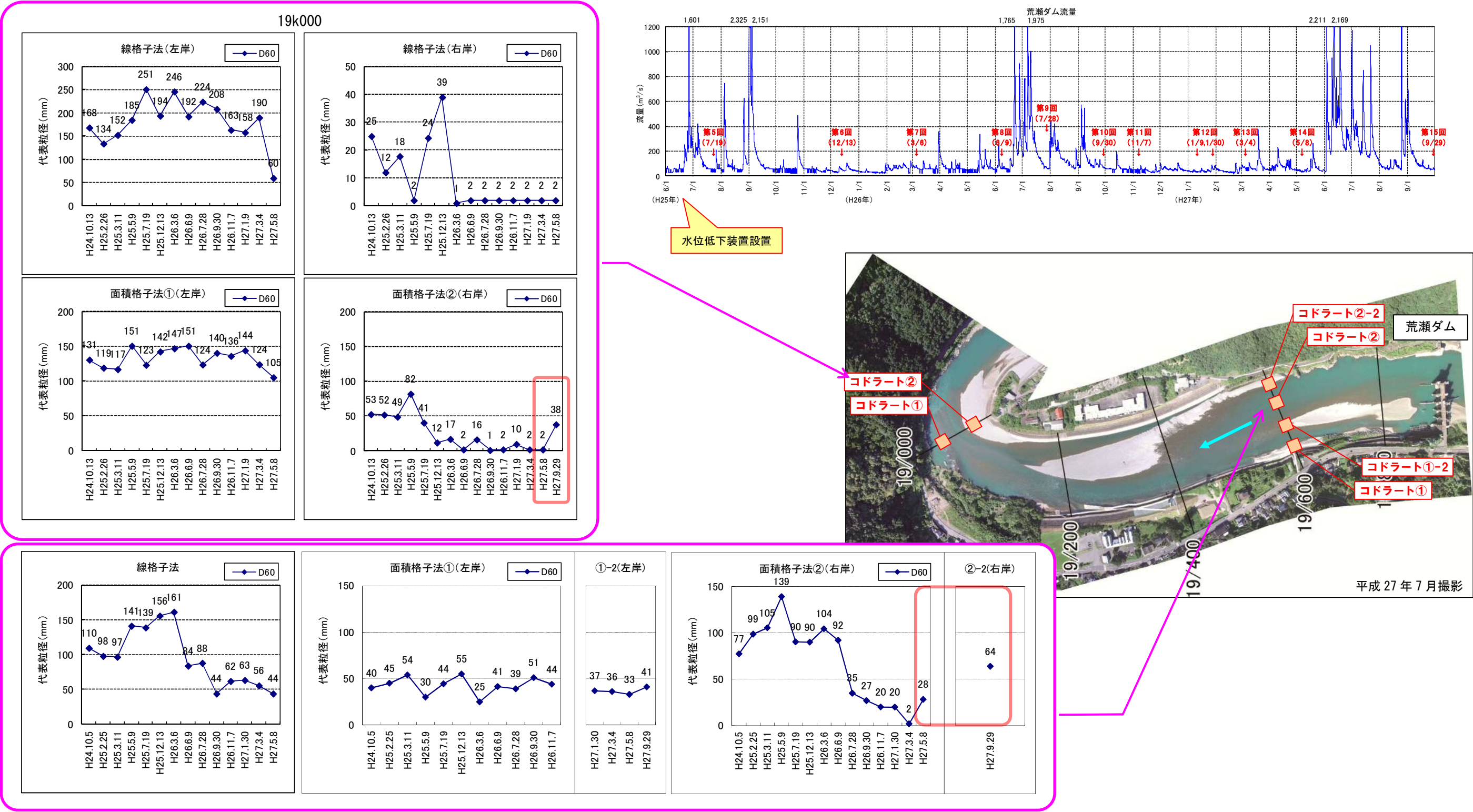
評価項目	視点	平成 27 年度の調査結果概要	評価概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事（水位低下装置、ダム撤去等）の影響把握	・ みお筋部撤去（H27 年 3 月）後の 6～7 月の連続的な小出水により、ダム上流の土砂が流出して河床が上昇した。	本調査は本体工事やみお筋部撤去後の出水による下流への細粒分の堆積や目詰まり等を察知し、環境や水生動物へ与える影響を迅速に把握できるよう定期的にダム下流で行ってきた。みお筋部撤去後の 5、9 月のデータや現地確認で細粒分の堆積がみられないことからダム撤去による下流への細粒分堆積の影響はほとんどなかったと考えられ、今後は本地点での調査は終了する。



【荒瀬ダム下流における物理環境（河床材料）の変化の概要】

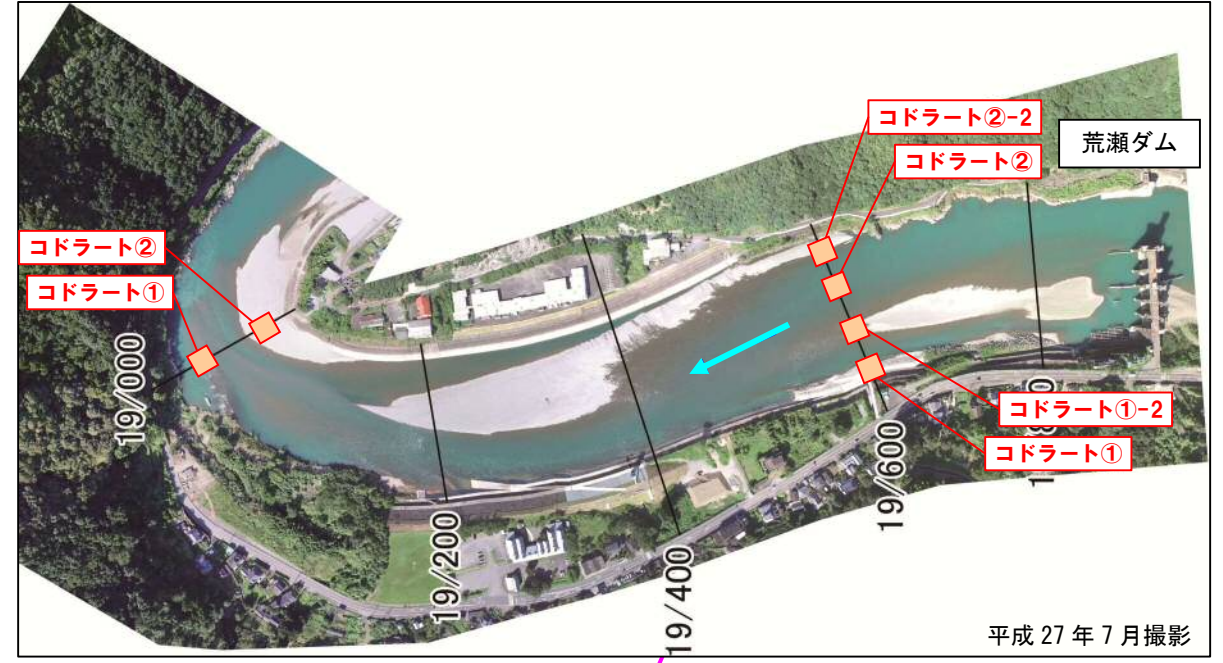
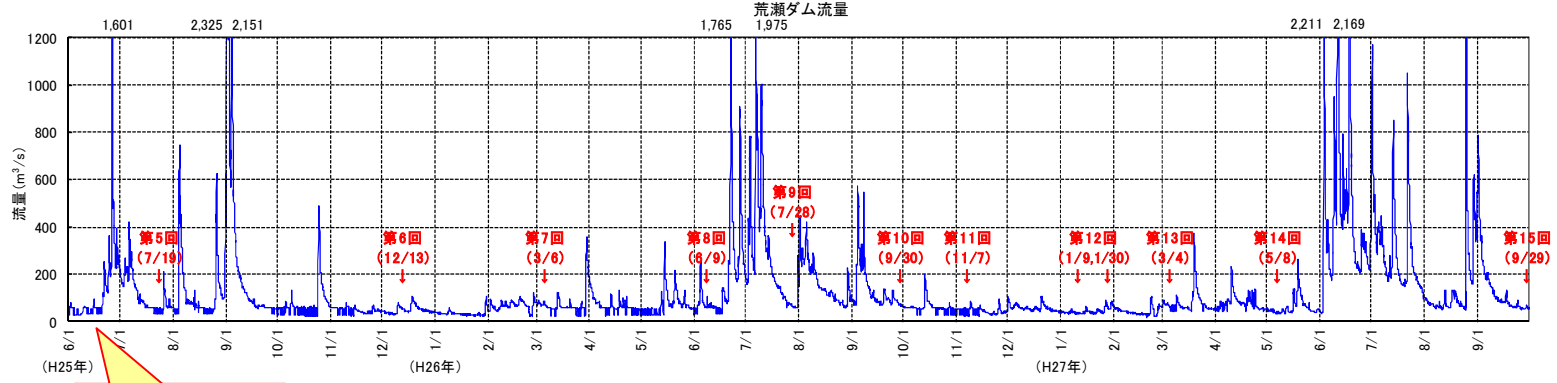
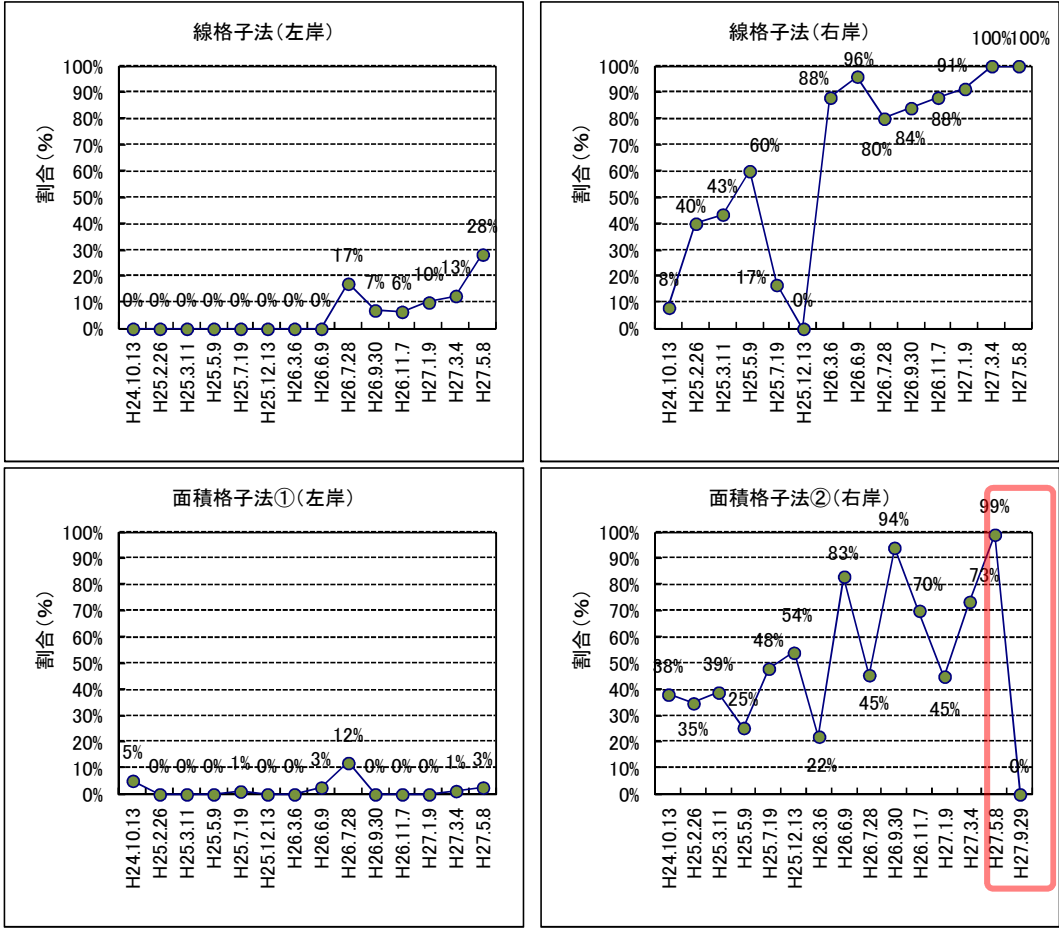
評価項目	視点	平成 27 年度の調査結果概要	評価概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事(水位低下装置、ダム撤去等)の影響把握	・みお筋部撤去(H27 年 3 月)後の 6～7 月の連続的な小中規模出水により、面積格子法の設置地点では、5 月から 9 月にかけて粗粒化する傾向がみられた。	みお筋部撤去(H27 年 3 月)後の 6～7 月の連続的な小中規模出水を受けて、ダム直下流では粗粒化したことから、細粒分の河床への堆積や目詰まりによる環境への影響はなかったと考えられる。

● 60%粒径

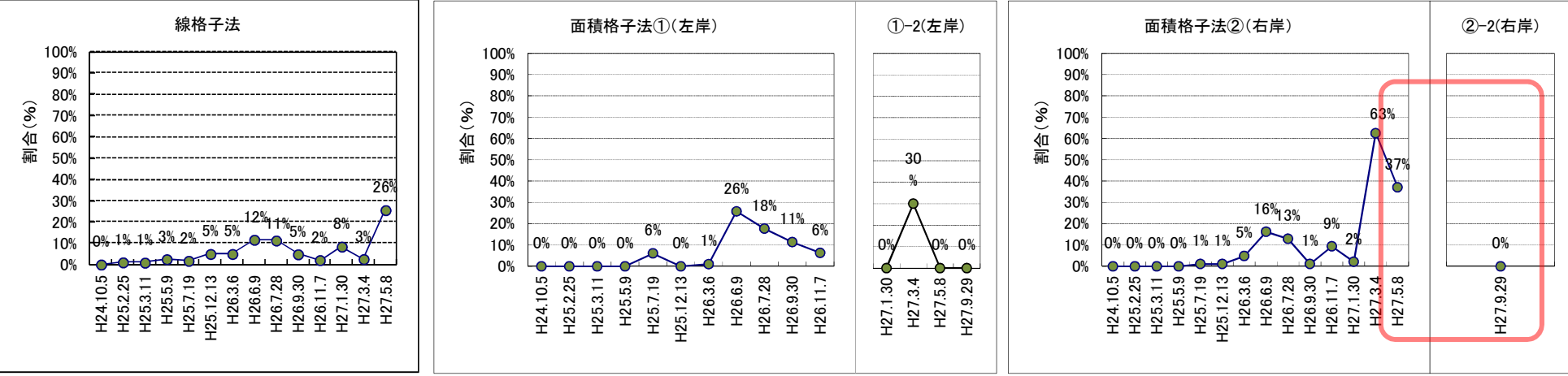


● 粒径 2 mm 以下の割合

19k000



19k600

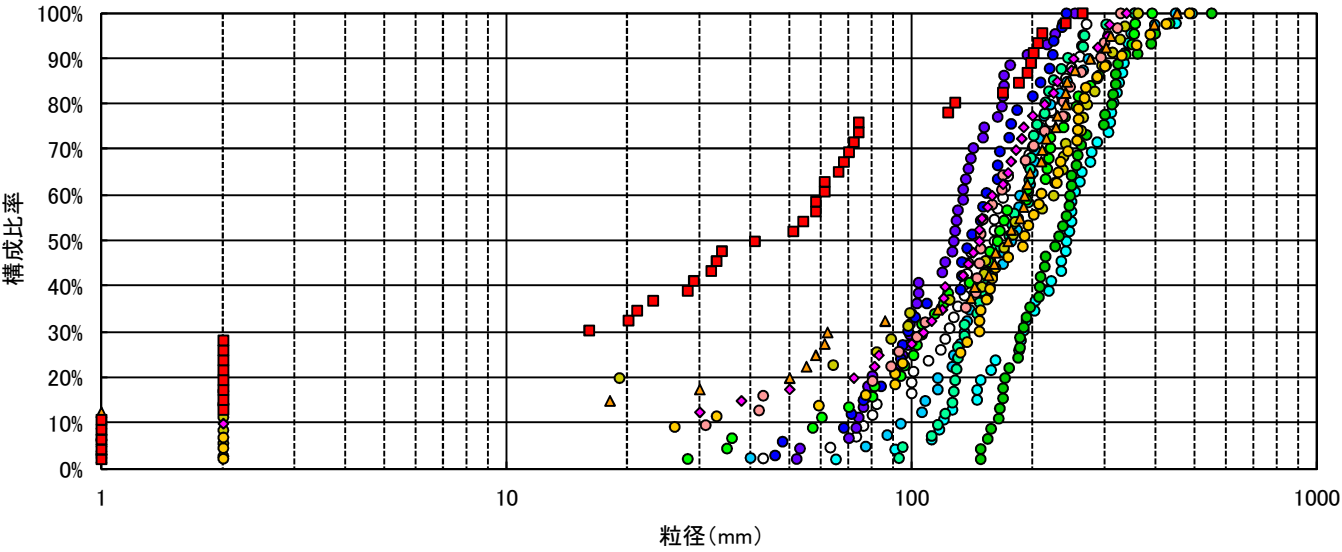


● 線格子法

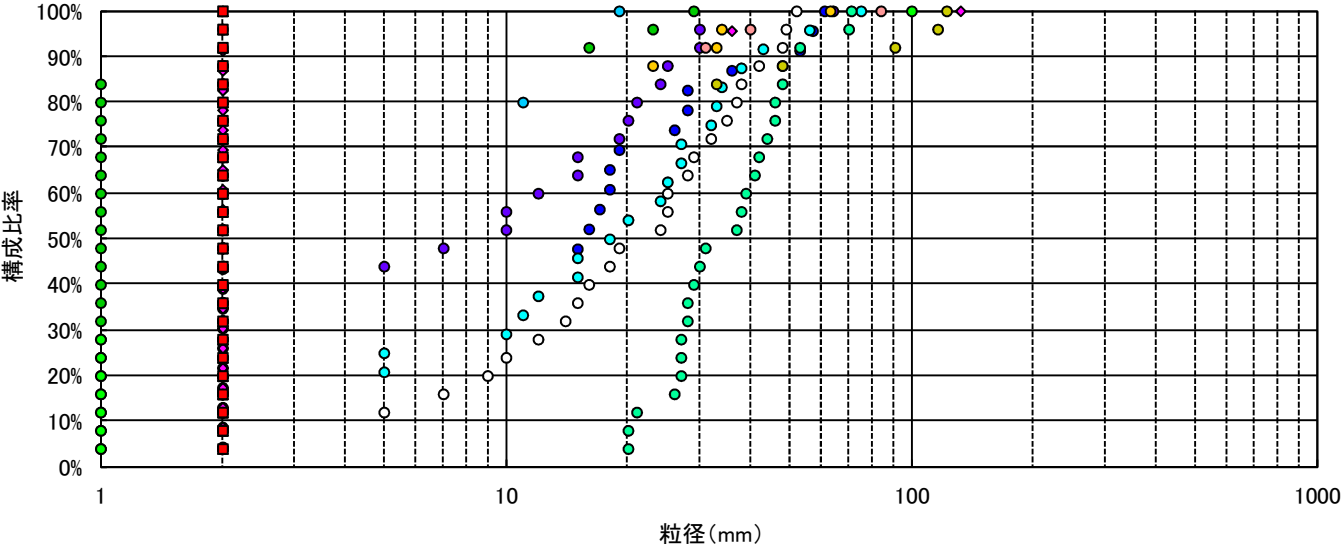
○ H24.10.13 ● H25.2.26 ● H25.3.11 ● H25.5.9 ● H25.7.19 ● H25.12.13 ● H26.3.6
● H26.6.9 ● H26.7.28 ● H26.9.30 ● H26.11.7 ● H27.1.9 ● H27.3.4 ● H27.5.8

19k000（蛇行部）

左岸（外岸側）

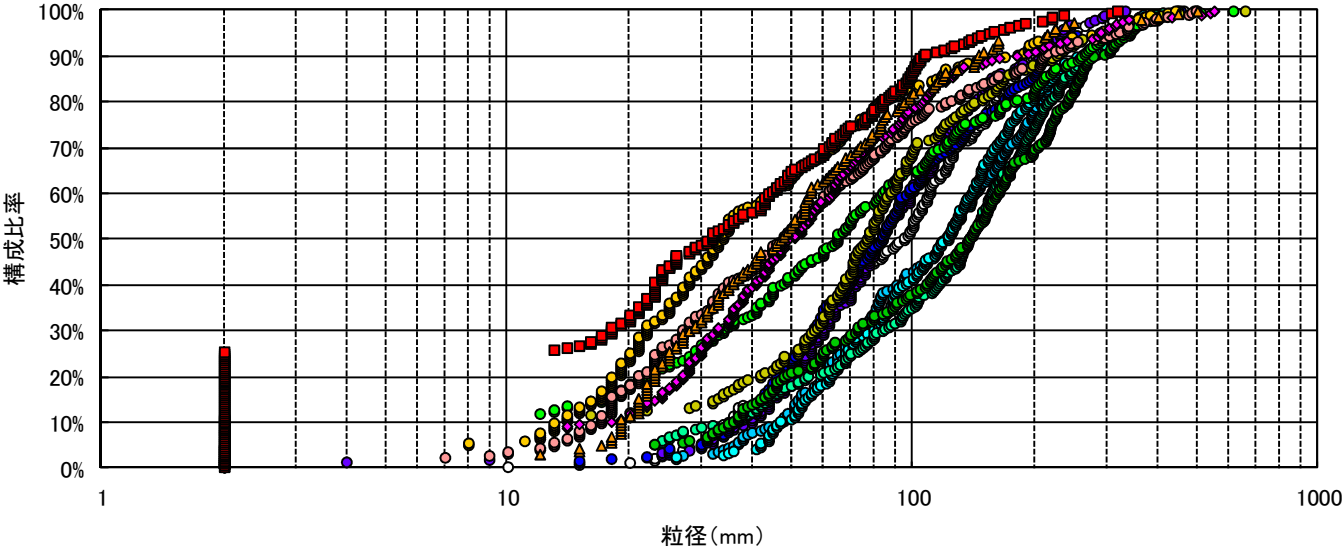


右岸（内岸側）

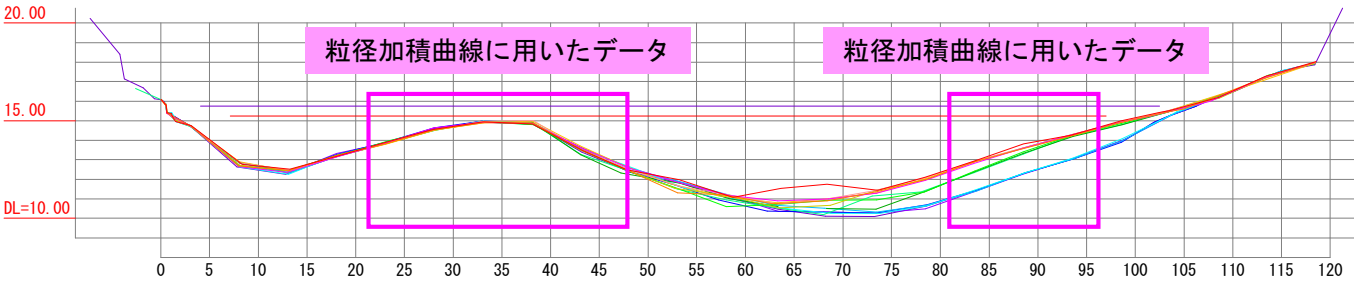


○ H24.10.5 ● H25.2.25 ● H25.3.11 ● H25.5.9 ● H25.7.19 ● H25.12.13 ● H26.3.6
● H26.6.9 ● H26.7.28 ● H26.9.30 ● H26.11.7 ● H27.1.30 ● H27.3.4 ● H27.5.8

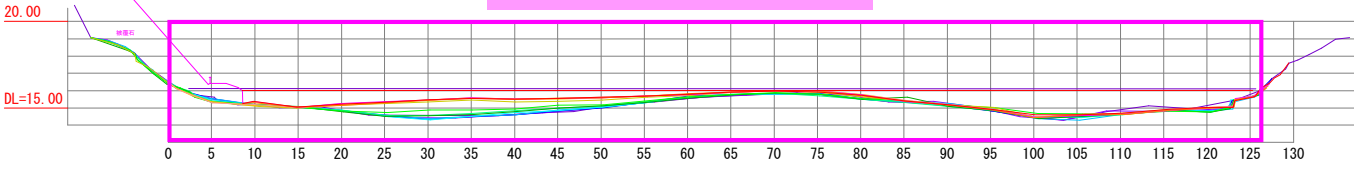
19k600（ダム直下流の直線部）



19k000



19k600



● 面積格子法

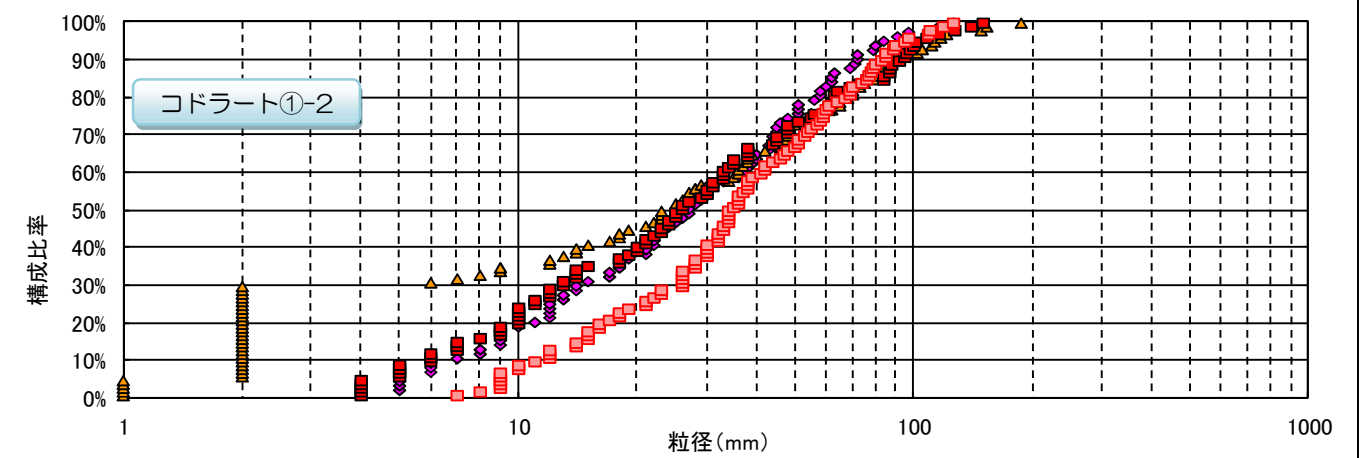
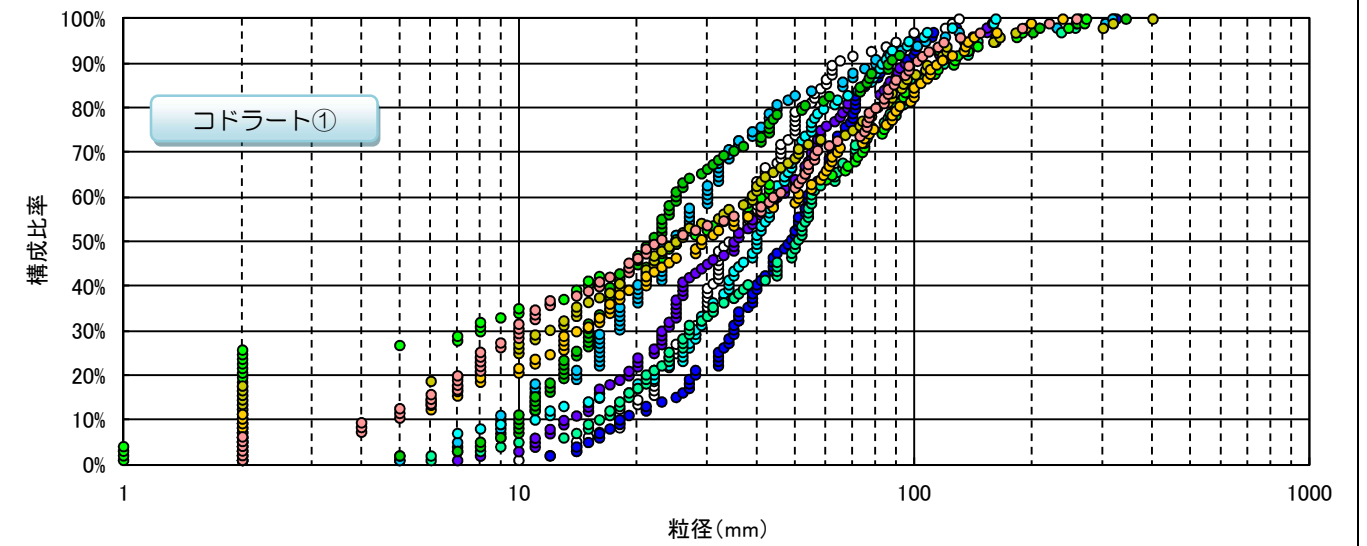
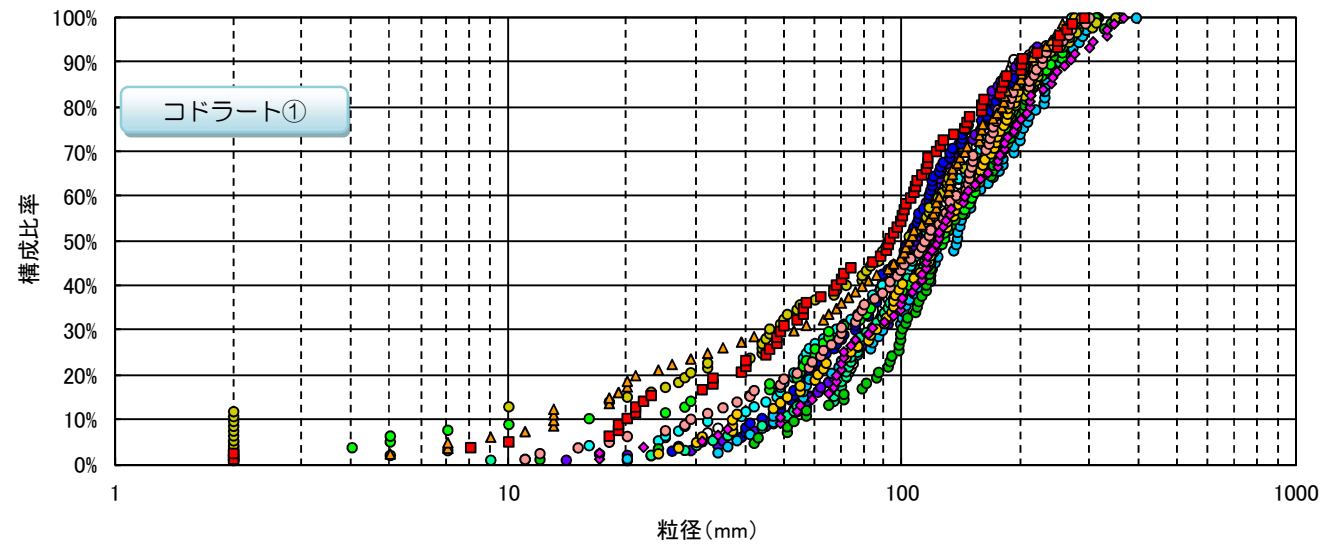
○ H24.10.13 ● H25.2.26 ● H25.3.11 ● H25.5.9 ● H25.7.19 ● H25.12.13 ● H26.3.6 ● H26.6.9
● H26.7.28 ● H26.9.30 ● H26.11.7 ● H27.1.9 ● H27.3.4 ● H27.5.8 ● H27.9.29

○ H24.10.5 ● H25.2.25 ● H25.3.11 ● H25.5.9 ● H25.7.19 ● H25.12.13 ● H26.3.6 ● H26.6.9
● H26.7.28 ● H26.9.30 ● H26.11.7 ● H27.1.30 ● H27.3.4 ● H27.5.8 ● H27.9.29

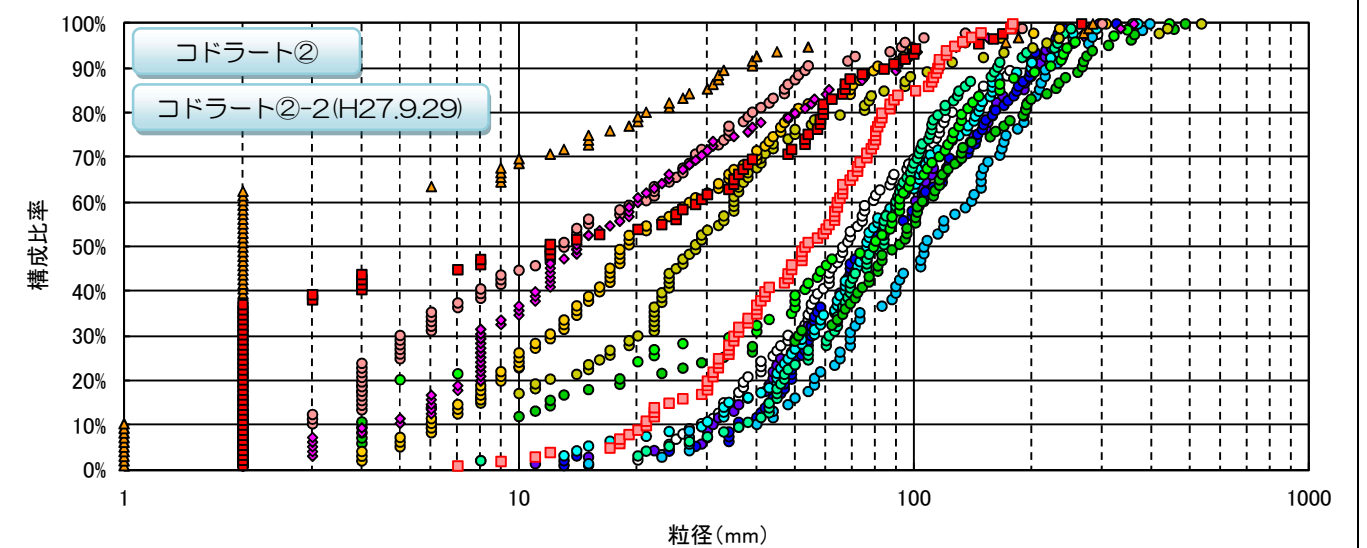
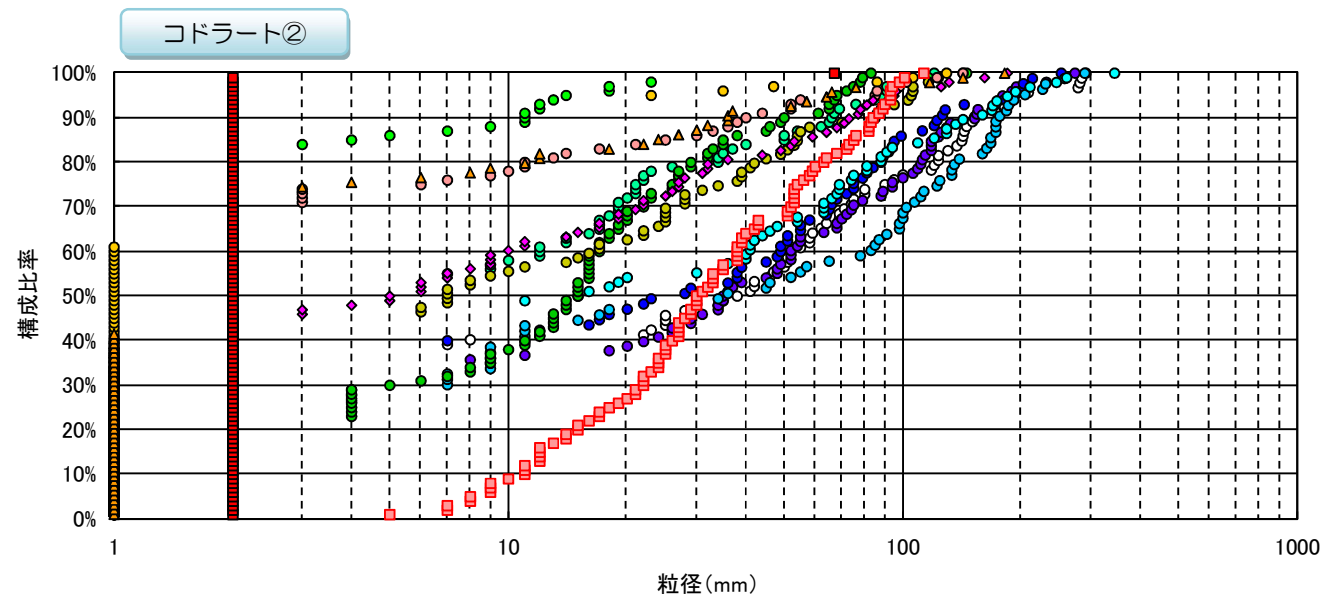
19k000 (蛇行部)

19k600 (ダム直下流の直線部)

左岸



右岸



【註】 物理定期モニタリングの調査測線である 19/600 の横断形状が変化したことから、参考までに 9 月 29 日の調査では右岸際にコドラートを移動し調査を実施した。